

The WBSC U-18 Men's Softball World Cup will be celebrated in Palmerston North, New Zealand from 22 February to 1 March 2020 with the most important event in the world for this age group showcasing the top 12 teams in the world battling for nine days For the Title of World Champion.

# U-18 MEN'S SOFTBALL WORLD CUP 2020

in PALMERSTON NORTH, NEW ZEALAND



2020 男子U-18 ワールドカップ  
全勝優勝の記録

# U18 WORLD CHAMPION



FOR THE TITLE OF  
WORLD CHAMPION



FOR THE TITLE OF  
WORLD CHAMPION



FOR THE TITLE OF  
WORLD CHAMPION



FOR THE TITLE OF  
WORLD CHAMPION

# WBSC U-18 MEN'S SOFTBALL WORLD CUP 2020

in PALMERSTON NORTH, NEW ZEALAND

WBSC U-18 MEN'S SOFTBALL WORLD CUP 2020

## TEAM JAPAN PLAYERS

### PITCHER / 投手

- #1 Hibiki IKEDA / 池田 響
- #2 Ren IKEDA / 池田 蓮
- #3 Takuro INAGAKI / 稲垣 拓朗
- #4 Kouki YAGI / 八木 孔輝

### CATCHER / 捕手

- #5 Ayato ISEKI / 井関 綾人
- #6 Aoi YAMAGUCHI / 山口 葵育

### INFIELDER / 内野手

- #7 Senju OGURA / 小椋 千寿
- #8 Ryuga OYAMA / 小山 竜加
- #9 Keito KOZASA / 小笹 慶斗
- #10 Hitto NAGAYOSHI / 永吉 飛斗
- #11 Masaru NISHIMORI / 西森 潤
- #12 Riku HATAKEYAMA / 畠山 陸

### OUTFIELDER / 外野手

- #13 Ibuki ONISHI / 大西 郁夢樹
- #14 Masaya OHASHI / 大橋 優也
- #15 Rui MIMOTO / 味元 琉維
- #16 Kai YAMAMOTO / 山本 佳依

## 日本代表選手プロフィール

# JAPAN



### PITCHER / Hibiki IKEDA

### 池田 響

# 1

- 投手 / 右投右打
- 所属 / 熊本県立熊本工業高(熊本)
- 生年月日: 2002.6.2
- 出身地: 熊本県
- 出身校: 熊本市立桜木中(熊本)
- 身長: 175cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表/アジアジュニア選手権優勝、'19U17日本代表/アジアカップ優勝  
〈主な国内大会の成績〉中学/'17全日本中学生大会準優勝



### PITCHER / Ren IKEDA

### 池田 蓮

# 2

- 投手 / 右投右打
- 所属 / 鹿児島県立鹿児島工業高(鹿児島)
- 生年月日: 2002.4.13
- 出身地: 鹿児島県
- 出身校: 鹿児島市立紫原中(鹿児島)
- 身長: 176cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表/アジアジュニア選手権優勝、'19U17日本代表/アジアカップ優勝  
〈主な国内大会の成績〉中学/'17全日本中学生大会優勝



### PITCHER / Takuro INAGAKI

### 稲垣 拓朗

# 3

- 投手 / 右投左打
- 所属 / 新島学園高(群馬)
- 生年月日: 2002.6.12
- 出身地: 東京都
- 出身校: 新島学園中(群馬)
- 身長: 180cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表/アジアジュニア選手権優勝、'19U17日本代表/アジアカップ優勝  
〈主な国内大会の成績〉中学/'17都道府県対抗全日本中学生大会3位、'19インターハイ優勝



### PITCHER / Kouki YAGI

### 八木 孔輝

# 4

- 投手 / 右投右打
- 所属 / 愛媛県立松山工業高(愛媛)
- 生年月日: 2003.2.25
- 出身地: 愛媛県
- 出身校: 東温市立重信中(愛媛)
- 身長: 180cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表/アジアジュニア選手権優勝、'19U17日本代表/アジアカップ優勝



### CATCHER / Ayato ISEKI

### 井関 綾人

# 5

- 捕手 / 右投右打
- 所属 / 埼玉栄高(埼玉)
- 生年月日: 2002.3.29
- 出身地: 埼玉県
- 出身校: さいたま市立日進中(埼玉)
- 身長: 172cm



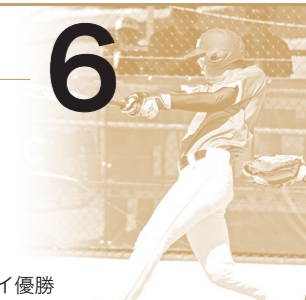
### CATCHER / Aoi YAMAGUCHI

### 山口 葵育

# 6

- 捕手 / 右投右打
- 所属 / 新島学園高(群馬)
- 生年月日: 2002.5.12
- 出身地: 長野県
- 出身校: 新島学園中(群馬)
- 身長: 174cm

〈日本代表としての実績〉'19U17日本代表/アジアカップ優勝  
〈主な国内大会の成績〉中学/'17都道府県対抗全日本中学生大会3位、'19インターハイ優勝



### INFIELDER / Senju OGURA

### 小椋 千寿

# 7

- 内野手 / 左投左打
- 所属 / 高知県立高知工業高(高知)
- 生年月日: 2002.8.6
- 出身地: 高知県
- 出身校: 四万十町立大正中(高知)
- 身長: 172cm



### INFIELDER / Ryuga OYAMA

### 小山 竜加

# 8

- 内野手 / 右投右打
- 所属 / 長崎県立佐世保西高(長崎)
- 生年月日: 2002.7.19
- 出身地: 長崎県
- 出身校: 広田中(長崎)
- 身長: 167



### INFIELDER / Keito KOZASA

### 小笹 慶斗

# 9

- 内野手 / 右投左打
- 所属 / 長崎県立大村工業高(長崎)
- 生年月日: 2002.3.4
- 出身地: 長崎県
- 出身校: 深江中(長崎)
- 身長: 168cm

〈主な国内大会の成績〉'18インターハイ準優勝、'19全国高校選抜大会優勝・インターハイ優勝・国体準優勝



### INFIELDER / Hitto NAGAYOSHI

### 永吉 飛斗

# 10

- 内野手 / 右投左打
- 所属 / 鹿児島県立鹿児島工業高(鹿児島)
- 生年月日: 2003.1.11
- 出身地: 鹿児島県
- 出身校: 鹿児島市立西陵中(鹿児島)
- 身長: 171cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表/アジアジュニア選手権優勝、'19U17日本代表/アジアカップ優勝  
〈主な国内大会の成績〉'17全日本中学生大会優勝



# JAPAN



## INFIELDER / Masaru NISHIMORI 西森 潤 11

- 内野手 / 右投右打
- 出身地:高知県
- 所属 / 高知県立高知工業高(高知)
- 出身校:仁淀町立仁淀中(高知)
- 生年月日:2002.10.17
- 身長:161cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表 / アジアジュニア選手権優勝、'19U17日本代表 / アジアカップ優勝  
 〈主な国内大会の成績〉'17都道府県対抗全日本中学生大会準優勝



## INFIELDER / Riku HATAKEYAMA 畠山 陸 12

- 内野手 / 右投左打
- 出身地:高知県
- 所属 / 高知県立高知西高(高知)
- 出身校:佐川町立尾川中(高知)
- 生年月日:2002.4.23
- 身長:165cm

〈日本代表としての実績〉'17中学3年生日本代表 / アジアジュニア選手権優勝  
 〈主な国内大会の成績〉'19国体優勝



## OUTFIELDER / Ibuiki ONISHI 大西 郁夢樹 13

- 外野手 / 右投左打
- 出身地:福井県
- 所属 / 啓新高(福井)
- 出身校:川西中(福井)
- 生年月日:2002.4.4
- 身長:166cm

〈日本代表としての実績〉'19U17日本代表 / アジアカップ優勝



## OUTFIELDER / Masaya OHASHI 大橋 優也 14

- 外野手 / 左投左打
- 出身地:愛媛県
- 所属 / 島根県立三刀屋高(島根)
- 出身校:松山市立三津浜中(愛媛)
- 生年月日:2002.6.6
- 身長:170cm

〈日本代表としての実績〉'19U17日本代表 / アジアカップ優勝



## OUTFIELDER / Rui MIMOTO 味元 琉維 15

- 外野手 / 右投左打
- 出身地:高知県
- 所属 / 高知県立高知工業高(高知)
- 出身校:四万十町立大正中(高知)
- 生年月日:2002.2.6
- 身長:170cm

〈日本代表としての実績〉'19U17日本代表 / アジアカップ優勝  
 〈主な国内大会の成績〉'19国体優勝



## OUTFIELDER / Kai YAMAMOTO 山本 佳依 16

- 外野手 / 左投左打
- 出身地:神奈川県
- 所属 / 飛龍高(静岡)
- 出身校:横須賀市立野比中(神奈川)
- 生年月日:2002.2.10
- 身長:174cm

〈日本代表としての実績〉'19U17日本代表 / アジアカップ優勝  
 〈主な国内大会の成績〉'18インターハイ3位、'19全国高校選抜大会3位



## TEAM STAFF

TEAM LEADER / 団長

Koichiro SHIOJIMA / 塩島 虎一郎  
 (公財)日本ソフトボール協会

GENERAL AFFAIRS / 総務

Hiroataka TSUMOTO / 津本 大貴  
 長崎県立佐世保西高

HEAD COACH / ヘッドコーチ

Yukihiro TANAKA / 田中 徹浩  
 新島学園高

TRAINER / トレーナー

Koichi TAOKA / 田岡 幸一  
 Body Laboratory

ASSISTANT COACH / アシスタントコーチ

Atsushi ABE / 安部厚志  
 飛龍高

INTERPRETER / 通訳

Takuya NOGA / 納賀 琢也  
 JTB

Hiroyuki SASAOKA / 笹岡 裕之  
 高知県立佐川高

PUBLIC RELATIONS / 広報

Osamu TAKEZAKI / 竹崎 治  
 日本体育社

# FOR THE TITLE OF WORLD CHAMPION



2月22日(土) ●大会第1日・オープニングラウンド/グループB 第1戦 vs ニュージーランド

OPENING ROUND GROUP\_B

## JAPAN vs NEW ZEALAND

	日本	5 2 5 0		12
	ニュージーランド	0 0 0 1		1

(日)○稲垣拓郎(4回) — 山口葵育  
(三塁打) 永吉飛斗②

※大会規定により4回得点差コールド



戦評

2月22日(土)、「WBSC第13回男子U18ワールドカップ」がニュージーランド・パーマストンノースにおいて開幕。日本は大会初日、「開幕戦」で东道国・ニュージーランドといきなり激突することになった。先攻の日本は立ち上がりから相手投手の制球の乱れ等に乗じてチャンスを作ると、チームの「キャプテン」3番・永吉飛斗が「快打」を連発！ この試合タイムリースリーベース2本を含む「3安打・6打点」と爆発する等、打線を牽引し、大量12点を奪う猛攻！！

守っても、開幕投手を任せられた投手陣の「リーダー」稲垣拓郎が自慢のライズボールで押しまくり、ニュージーランド打線をわずか2安打に抑え込む「危なげのないピッチング」を展開。12-1(4回得点差コールド)と予想外ともいえる大差で圧勝し、好スタートを切った。

2月22日(土) ●大会第2日・オープニングラウンド/グループB 第2戦 vs グアテマラ

OPENING ROUND GROUP\_B

## GUATEMALA vs JAPAN

	グアテマラ	0 1 0 0		0
	日本	3 1 8 1		X

(日)○八木孔輝(3回)、池田響(1回) — 山口葵育  
(三塁打) 大西郁夢樹 (二塁打) 西森潤、小倉千寿

※大会規定により4回得点差コールド



戦評

大会第2日、日本はオープニングラウンド・グループB第2戦でグアテマラと対戦。初戦(ニュージーランド戦)で圧勝した「勢い」そのままに、立ち上がりから着実に得点！ 5番・味元琉維、6番・山口葵育の連続タイムリー等で試合の主導権を握ると、4-1と3点リードで迎えた3回裏には1番・西森潤のタイムリースリーベース、代打・大西郁夢樹のタイムリースリーベース等でたたみかけ、大量8点を奪う猛攻！！

守っても、先発・八木孔輝が2回表に1点を返されはしたものの、ビッグイニングを作らせることなく2番手・池田響へ投手リレー。最後はその池田響がグアテマラ打線を三者連続三振に斬って取り、12-1で4回得点差コールドゲームが成立。「2試合連続のコールド勝ち」を飾った。

2月24日(月) ●大会第3日・オープニングラウンド/グループB 第3戦 vs デンマーク

OPENING ROUND GROUP\_B

## JAPAN vs DENMARK

	日本	9 4 2		15
	デンマーク	0 0 0		0

(日)○池田響(2回)、池田蓮(1回) — 山口葵育  
(本塁打) 大西郁夢樹、大橋優也②  
(三塁打) 小山竜加 (二塁打) 山口葵育、池田響

※大会規定により4回得点差コールド



戦評

大会第3日、日本はオープニングラウンド・グループB第3戦でデンマークと対戦。ここまで2試合連続4回コールド勝ちを収めている日本は、この試合もエンジン全開！ 2番・大西郁夢樹、3番・大橋優也の鮮やかな「連続ホームラン」で早々と先手を取ると、この後も攻撃の手を緩めることなく一気に加点！！ 相手守備の乱れもあって初回に大量9点を奪い、2回表には6番・池田響、7番・井関綾人の連続タイムリースリーベース、1番・小山竜加のタイムリースリーベース等で4点を追加。3回表にも3番・大橋優也のランニングホームラン等で2点を加え、15点差をつけ、3回得点差コールドゲームが成立。投手陣は池田響 → 池田蓮の継投でデンマーク打線をわずか1安打に抑え込み、「余裕」の完封勝利。15-0の完勝で「開幕3連勝」を飾った。

2月25日(火) ●大会第4日・オープニングラウンド/グループB 第4戦 vs メキシコ

OPENING ROUND GROUP\_B

## MEXICO vs JAPAN

	メキシコ	0 0 3 0 0 0 0		3
	日本	0 2 1 1 0 0 X		4

(日)○稲垣拓郎(7回)、池田響(1回) — 山口葵育  
(三塁打) 小倉千寿



戦評

大会第4日、日本はオープニングラウンド・グループB第4戦でメキシコと対戦。2回裏、無死満塁から7番・小椋千寿、8番・山本佳依の連続犠牲フライで2点を先制。しかし、3回表、先発・稲垣拓郎が四球、ヒット等で一死・二塁とされると、2番打者に一塁線を破られ二者が生還。打球が外野深く転がる間に打者走者も一気に本塁を陥れ、この回まさかの3失点。今大会はじめて「リードを許す展開」となった日本はその裏、四球、3番・永吉飛斗のセンター前ヒット、盗塁等で一死二・三塁とし、4番・山口葵育が痛烈なピッチャー返し！ これが投手のグラブをはじく間に三塁走者が還り、同点。続く4回裏には一死から7番・小椋千寿が左中間を切り裂くスリーベースを放ち、チャンスメイク。ここで8番・山本佳依がキッチリ犠牲フライを打ち上げ、勝ち越しに成功！！ そのまま4-3のスコアで逃げ切り、苦しみながらも「全勝」をキープした。

2月26日(水) ●大会第5日・オープニングラウンド/グループB 第5戦 vs アメリカ

OPENING ROUND GROUP\_B

## USA vs JAPAN

アメリカ 0000 | 0  
日本 3043 | 10

(日)○八木孔輝(3回)、池田 蓮(1回) — 山口葵育、井関綾人  
(本塁打) 井関綾人  
(三塁打) 大西郁夢樹 (二塁打) 山本佳依

※大会規定により4回得点差コールド



戦評

大会第5日、日本はオープニングラウンド・グループB最終戦に臨み、アメリカと対戦。

ここまで「無傷(4連勝)」で突っ走る日本は、初回に相手守備の乱れに乗り早々と先取点。さらに6番・大西郁夢樹の右中間を切り裂くタイムリースリーベースで2点を加えると、3回裏には再び相手守備の乱れ、犠牲フライ、7番・井関綾人のランニングホームランで一挙4点を追加。続く4回裏にも一死一・二塁から3番・大橋優也がタイムリースリーベースを放ち、2点を奪い、なおも四球、盗塁の後、5番・山口葵育が三遊間を鋭く破るタイムリー！4回コールド勝ちに必要な10点差をつけ、そのまま試合終了。

オープニングラウンド・グループB「5戦全勝」、文句なしの「1位通過」でスーパーラウンドへ進出することとなった。

2月27日(木) ●大会第6日・スーパーラウンド/第1戦 vs アルゼンチン

SUPER ROUND

## ARGENTINA vs JAPAN

アルゼンチン 01000 | 1  
日本 03014x | 8

(日)○稲垣拓郎(5回) — 山口葵育  
(三塁打) 井関綾人、永吉飛斗②

※大会規定により5回得点差コールド



戦評

大会第6日、この日からスーパーラウンドに突入し、日本は初戦(グループA 2位・グループB 1位戦)でアルゼンチンと対戦。

先発・稲垣拓郎が2回表、一死二塁からライト前タイムリーを浴び1点を先制されはしたものの、その裏すぐに反撃。

一死一塁から7番・井関綾人がタイムリースリーベースを放ち、同点とすると、この後パスボールであっさり逆転に成功。さらに相手守備の乱れ、1番・西森潤の犠牲フライで1点を加え、4回裏にも7番・井関綾人、8番・山本佳依の連打を口火に1点を追加。5回裏にはチームの「キャプテン」3番・永吉飛斗がセンターオーバーのスリーベースを放ち、チャンスメイクした後、4番・山口葵育、7番・井関綾人、2番・大橋優也の3本のタイムリーで一挙4得点！「5回コールド」を成立させる7点差をつけ、終わってみれば8-1で快勝!! スーパーラウンド初戦をキッチリ白星で飾った。

2月28日(金) ●大会第7日・スーパーラウンド/第2戦 vs オーストラリア

SUPER ROUND

## AUSTRALIA vs JAPAN

オーストラリア 0100100 | 2  
日本 0041000 | 5

(日)○八木孔輝(7回) — 山口葵育  
(本塁打) 永吉飛斗



戦評

大会第7日、日本はスーパーラウンド第2戦(グループA 1位・グループB 1位戦)で「前回王者」オーストラリアと激突。互いに「優勝決定戦での再戦」をにらんだ攻防となり、2回表、オーストラリアが7番打者のレフトオーバーのスリーベース、9番打者の二遊間を破るタイムリーで1点を先制。

しかし、日本も3回裏、一死から四球、ライトフライで二死一塁。ここで2番・大橋優也が「頭部直撃の死球」を受け、一・二塁となると、目の前の死球に「発奮」した「頼れるキャプテン」3番・永吉飛斗がセカンドへ痛烈な当たり！この打球を二塁手が後逸、打球が外野深く転々とする間に塁上の走者・打者走者が一気に本塁へ還り(※記録は永吉飛斗のランニングホームラン)、逆転に成功。さらに四球、ワイルドピッチ、四球で一・三塁とし、「ここが勝負どころ!!」と見た田中徹浩ヘッドコーチが得意の「ディレードスチール」を敢行。一塁走者が二盗気味にスタートして捕手の二塁送球を誘い出し、「一瞬」「わずかな隙」を突いて三塁走者が本塁突入。これが見事に決まり、この回4点目を挙げた。日本は4回裏にも6番・井関綾人がセカンド内野安打で出塁し、積極果敢に盗塁。捕手の二塁悪送球を誘い、カバーした中堅手も球を後逸する間に一気に本塁へ生還。大きな5点目を追加。

守っては、先発・八木孔輝が5回表に2点目を返されながらも「集中力」を切らさず、「粘り強いピッチング」を展開。得意のドロップを有効に使ってオーストラリア打線をうまく振らせ、完投勝利。難敵に5-2で快勝し、スーパーラウンド「トータル4勝0敗」とし、スーパーラウンド最終戦(チェコ戦)を待たずに「ラウンド1位」「ワールドチャンピオンシップ・ゴールドメダルゲーム(優勝決定戦)進出」を確定させた。

2月29日(土) ●大会第8日・スーパーラウンド／第3戦 vs チェコ

SUPER ROUND

CZECH REPUBLIC vs JAPAN

チェコ 00100 | 1 (日)○池田 響(4回)、池田 連(1回) — 井関綾人  
日本 21302x | 8

※大会規定により5回得点差コールド



**戦評** 大会第8日、日本はスーパーラウンド最終戦(グループA 3位・グループB 1位戦)でチェコと対戦。前日のオーストラリア戦の勝利で早々と「ワールドチャンピオンシップ・ゴールドメダルゲーム(優勝決定戦)進出」を決めた日本は、この試合「主力」を「温存」。大会最終日/優勝決定戦を見据えたメンバー構成で臨み、初回、相手投手の制球の乱れに乗じて早々と2点を先制。2回裏にもパスボールで1点を追加し、試合の主導権を握ると、ソロホームランで1点を返された後の3回裏には再びパスボール、6番・味元琉維のライトへのタイムリーで3得点。5回裏にもパスボール、二死満塁から2番・畠山陸が二遊間を破るタイムリーを放ち、7点差をつけ「5回得点差コールドゲーム」が成立。8-1で快勝し、スーパーラウンドも「全勝(5勝0敗)」で駆け抜け、いよいよ大会最終日/優勝決定戦に臨むこととなった。

2月28日(金) ●大会最終ワールドチャンピオンシップ・ゴールドメダルゲーム/優勝決定戦 vs オーストラリア

GOLD MEDAL GAME

AUSTRALIA vs JAPAN

オーストラリア 11000 | 2 (日)○八木孔輝(5回) — 山口葵育  
日本 0135x | 9 (本塁打) 味元琉維、西森 潤 (二塁打) 大橋優也

※大会規定により5回得点差コールド



**戦評** 大会最終日、日本は「ワールドチャンピオンシップ・ゴールドメダルゲーム(優勝決定戦)」でオーストラリアと「世界一の座」をかけ再戦。先発・八木孔輝が立ち上がり先制点を許し、2回裏にもソロホームランを浴びて失点。2点を追いかける苦しい展開となったが、2回裏、この回先頭の5番・味元琉維が一塁線を鋭く破り、打球がそのまま外野深く転がる間に一気に本塁まで駆け抜けるランニングホームラン! 反撃の狼煙を上げると、3回裏には一死二・三塁から再び5番・味元琉維が一・二塁間を破るタイムリー。右翼手がこの打球の処理を焦って後逸する間に塁上の走者・打者走者すべてが還り、一挙3点を奪い、逆転に成功!! 「勢い」に乗る日本は4回裏にも「機動力」を活かした攻撃と1番・西森潤の左中間へのツーランホームラン等で大量5点を追加し、大きくリード。守っては、先発・八木孔輝が毎回のように走者を背負いながらもスーパーラウンド同様「粘り強く」「尻上がりに調子を上げる」ピッチングを展開。3回以降相手打線に得点を許さず、5回7点差で「得点差コールドゲーム」が成立。

試合結果

「WBC第13回男子U18ワールドカップ」には、今年(2020年)に入ってWBC(世界野球ソフトボール連盟)男子ソフトボール「世界ランキング1位」へ躍り出た日本をはじめ、アルゼンチン(2)、ニュージーランド(3)、カナダ(4)、オーストラリア(5)、アメリカ(6)、チェコ(7)、メキシコ(8)、南アフリカ(10)、デンマーク(11)、シンガポール(17)、グアテマラ(21)の12チームが出場(※( )内数字はWBC最新世界ランキング)。

試合方式は、その出場12チームを「世界ランキング」に基づき2グループに振り分け、まず1回総当たりの「オープニングラウンド」を実施。各グループ上位3チームが「スーパーラウンド」へ進み、同じく1回総当たりで対戦(※ただし、オープニングラウンドで同グループだったチーム同士の対戦は、オープニングラウンドの試合結果が持ち越される)し、ラウンド順位を決定。最終日、スーパーラウンド3位・4位がワールドチャンピオンシップ/ブロンズメダルゲーム(3位決定戦)を、スーパーラウンド1位・2位がワールドチャンピオンシップ/ゴールドメダルゲーム(優勝決定戦)を戦うというスケジュールで覇が競われた。今大会はWBCのカテゴリー区分の変更に伴い、「U18/18歳以下」のカテゴリーとしては初めての開催(※第1回から第12回まで「U19/19歳以下」の年齢区分で開催された)。男子において、「世界選手権」から「ワールドカップ」に大会名称が改称されて行われる「最初の大会」となった。

OPENING ROUND

オープニングラウンド戦績表

GROUP A	アルゼンチン	カナダ	オーストラリア	チェコ	南アフリカ	シンガポール	勝	敗	得点	失点	順位
アルゼンチン		○ 10 - 0	● 4 - 6	○ 4 - 3	○ 6 - 1	● 3 - 8	3	2	27	18	2
カナダ	● 0 - 10		● 3 - 14	● 2 - 9	○ 6 - 1	○ 8 - 4	2	3	19	38	4
オーストラリア	○ 6 - 4	○ 14 - 3		○ 4 - 3	○ 21 - 1	○ 11 - 0	5	0	56	11	1
チェコ	● 3 - 4	○ 9 - 2	● 3 - 4		○ 7 - 0	○ 6 - 3	3	2	28	13	3
南アフリカ	● 1 - 6	● 1 - 6	● 1 - 21	● 0 - 7		● 8 - 9	0	5	11	49	6
シンガポール	○ 8 - 3	● 6 - 8	● 0 - 11	● 3 - 6	○ 9 - 8		2	3	24	36	5

GROUP B	日本	ニュージーランド	アメリカ	メキシコ	デンマーク	グアテマラ	勝	敗	得点	失点	順位
日本		○ 12 - 1	○ 10 - 0	○ 4 - 3	○ 15 - 0	○ 12 - 1	5	0	53	5	1
ニュージーランド	● 1 - 12		○ 11 - 1	○ 14 - 3	○ 13 - 4	○ 8 - 7	4	1	47	27	2
アメリカ	● 0 - 10	● 1 - 11		● 1 - 10	○ 7 - 3	● 3 - 10	1	4	12	44	5
メキシコ	● 3 - 4	● 3 - 14	○ 10 - 1		○ 13 - 0	● 3 - 4	2	3	32	23	4
デンマーク	● 0 - 15	● 4 - 13	● 3 - 7	● 0 - 13		● 1 - 16	0	5	8	64	6
グアテマラ	● 1 - 12	● 7 - 8	○ 10 - 3	○ 4 - 3	○ 16 - 1		3	2	38	27	3

2位と3位、4位と5位は直接対決の勝敗で順位を決定

スーパーラウンド戦績表

SUPER ROUND

	オーストラリア A1位	アルゼンチン A2位	チェコ A3位	日本 B1位	ニュージーランド B2位	グアテマラ B3位	勝	敗	得点	失点	順位
オーストラリア		○ 6 - 4	○ 4 - 0	● 2 - 5	○ 2 - 0	○ 13 - 0	4	1	27	12	2
アルゼンチン	● 4 - 6		○ 4 - 1	● 1 - 8	○ 7 - 3	○ 8 - 1	3	2	24	21	3
チェコ	● 3 - 4	● 3 - 4		● 1 - 8	○ 8 - 2	○ 10 - 0	2	3	25	18	4
日本	○ 5 - 2	○ 8 - 1	○ 8 - 1		○ 12 - 1	○ 12 - 1	5	0	45	6	1
ニュージーランド	● 0 - 2	● 3 - 7	● 2 - 7	● 1 - 12		○ 8 - 7	1	4	14	36	5
グアテマラ	● 0 - 13	● 1 - 8	● 0 - 3	● 1 - 12	● 7 - 8		0	5	9	51	6

1位・2位のチームは優勝決定戦へ / 3位・4位のチームは優勝決定戦へ / 色付け部分はオープニングラウンドの結果を反映

7位~12位決定戦 戦績表

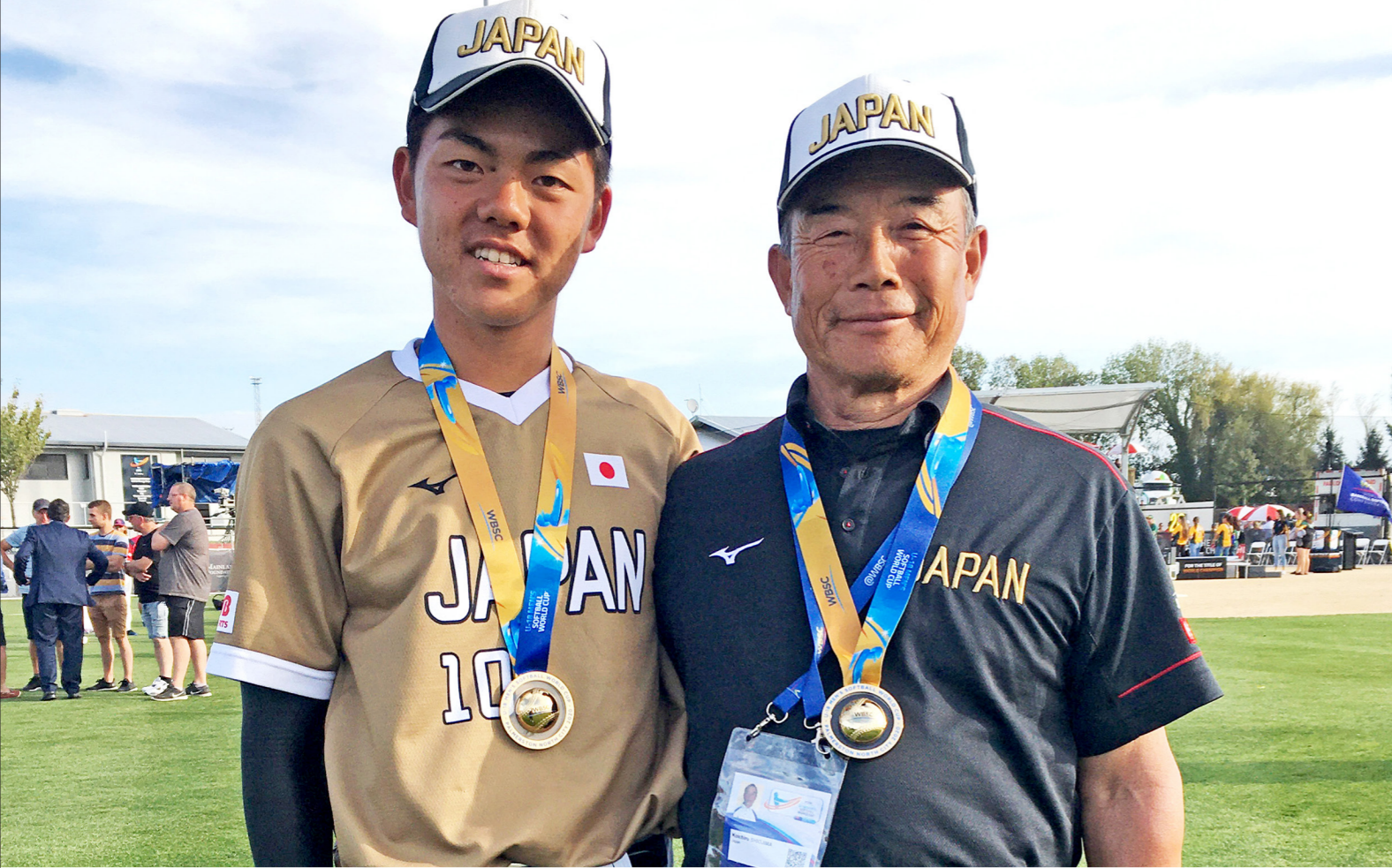
7th to 12th PLACE

	カナダ A4位	シンガポール A5位	南アフリカ A6位	メキシコ B4位	アメリカ B5位	デンマーク B6位	勝	敗	得点	失点	順位
カナダ		○ 8 - 4	○ 6 - 1	○ 6 - 1	○ 8 - 6	○ 11 - 4	5	0	39	16	7
シンガポール	● 4 - 8		○ 9 - 8	● 1 - 9	● 2 - 4	○ 4 - 3	2	3	20	32	9
南アフリカ	● 1 - 6	● 8 - 9		● 5 - 7	○ 11 - 7	○ 12 - 2	2	3	37	31	10
メキシコ	● 1 - 6	○ 9 - 1	○ 7 - 5		○ 10 - 1	○ 13 - 0	4	1	40	13	8
アメリカ	● 6 - 8	○ 4 - 2	● 7 - 11	● 1 - 10		○ 7 - 3	2	3	25	34	11
デンマーク	● 4 - 11	● 3 - 4	● 2 - 12	● 0 - 13	● 3 - 7		0	5	12	47	12

9位・11位は大会規定により順位を決定 / 色付け部分はオープニングラウンドの結果を反映

## 見事、「三度目の世界一」に!! ～心よりの感謝を～

男子U18 日本代表チーム 団長 塩島 虎一郎



早春の2月13日、成田空港にて催された結団式・壮行会で関係各位の激励を受け、男子U18日本代表チームは「決戦の地」ニュージーランド・パーマストンノースへと飛び立った。

15日・16日は現地で開催されたプレトーナメント大会に参戦し、ワールドカップ本番に向けた最終調整はもちろんのこと、地元・ニュージーランドのチーム等ともテストマッチを通じて交流。その後数名の選手が発熱し、コンディションを崩すという「思わぬアクシデント」に見舞われることとなったが……田中徹浩ヘッドコーチをはじめ、安部厚志・笹岡裕之両アシスタントコーチ、津本大貴総務、田岡幸一トレーナーら「チームスタッフ」の「適切な対応」「献身的な働き」により何とか窮地を脱出。無事「WBSC第13回男子U18ワールドカップ」の開幕を迎えることができた。

ホスト国・ニュージーランドとの大事な初戦に大勝し、チームの「勢い」は一気に加速！まさに「若き戦士たちの無限の可能性」を感じさせる快進撃で勝利を積み重ね、オープニングラウンド・スーパーラウンドともに「無敗」でゴールドメダルゲーム（優勝決定戦）へ進出。前回大会苦杯をなめた「難敵」オーストラリアと再び対戦することになったそのゴールドメダルゲーム（優勝決定戦）では、序盤リードを許したものの、今回のチームの「強さ」を象徴するような「底力」を発揮し、すぐさま反撃！見事逆転に成功!!選手・スタッフ、また、現地まで応援に駆けつけてくれた保護者も一丸となって戦い、素晴らしい勝利を獲得することができた。

この「男子U18ワールドカップ」で優勝を飾り、「世界の頂点」へ登り詰めること。そして今後さらなる「成長」を遂げ、日本の男子ソフトボールの「未来」を担う存在となること。これら「高く大きい目標」を早くから設定し、選手・スタッフがブレることなく常にそこを追い求め、自らを磨き続けてきたからこそ……勝ち得た「世界一」であったと私自身も確信している。

最後に、今回選手たちを送り出していただいたご家族、学校、その他多くの関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。また、現地ボランティア・協力員の方々、今大会日本チームの宿泊所としていろいろとお世話になりました国際大学IPUニュージーランドの皆様、本当にありがとうございました。

これからもそれぞれの場所で「成長」「活躍」し、さらなる大舞台へ羽ばたいていく彼らの「勇姿」をどうか見守っていただきたいと思っております。

## 実を結んだ継続的な選手強化

今回、見事な「快進撃」で世界の頂点へ登り詰めた男子U18日本代表チーム。その「背景」には、男子の категорияにおいて(公財)日本ソフトボール協会選手強化本部が実施した“継続的な選手強化”があったことを改めて記しておきたい。

“継続的な選手強化”のはじまりとなったのは、2017年「第6回アジア男子ジュニア選手権大会」におけるチーム編成。大会は当時U19(19歳以下)を対象に該当カテゴリーの各国代表チームが参加する位置づけであったが、(公財)日本ソフトボール協会選手強化本部はその対象となるカテゴリー(U19)ではなく、あえて「一つ下のカテゴリー」である中学3年生を対象に「日本代表チーム」を編成。これまで「中学生」を対象とした国際大会が開催されていないこともあって、将来有望な中学生選手の「新たな目標」を創出するという狙いも含め、「初の試み」に踏み切った(※また、大会派遣の趣旨・目的は、今後、高校進学はもちろん、大学、実業団、クラブチーム等で将来にわたってソフトボールを続け、U19日本代表(現・U18日本代表)はもとより『TOPチーム』である『日本代表』をめざすモチベーションを高めることにあり、『男子TOP日本代表』を頂点とした『継続的な強化システム』の構築を図るための『第一歩』とされた)。

この第6回アジア男子ジュニア選手権大会に出場し、見事優勝。「アジアNo.1」を勝ち獲る実績を挙げるとともに早くから「国際舞台で揉まれた」のが、今回の「U18日本代表」でも主力メンバーとなった池田響、池田蓮、稲垣拓朗、八木孔輝、永吉飛斗、西森潤、畠山陸だ。

「継続した選手強化を図る」という日本協会の方針・方向性が実を結び、昨年9月の「第7回男子U17アジアカップ(※今回の男子U18ワールドカップのアジア地区予選を兼ねた大会)」でも2017年「第6回アジア男子ジュニア選手権大会」優勝メンバーから7名(池田響、池田蓮、稲垣拓朗、八木孔輝、永吉飛斗、西森潤、眞茅大翔)が代表に名を連ねている。その選手たちがしっかりと成長し、期待通り「チームの主力」として活躍。新たな選手とも競わせながら、常に「世界の頂点」を追い求め、「必ず世界一を勝ち獲る!」という「高い目標設定」を行っていたことが「確かなステップアップ」につながる要因になったといえるだろう。



2017 アジアジュニア選手権優勝



2017 継続した選手強化がスタート



2019 U17 アジアカップ優勝



2020 U18 ワールドカップ



2020 U18 ワールドカップ/MVP 永吉飛斗キャプテン